

人生の 仕舞い方



よりこ
武藤頼胡の

新年度になり、新たな元号が「令和」と発表されました。新年度に新たな一步を踏み出す上でぜひ、今後の人生でやっていきたいことをエンディングノートに書いて、実践してみてください。新年度からは、今までに頂いた相談内容について、書いていきます。今回は60代女性、墓の相談です。

「主人と一緒の墓に入りたくありません。主人は実家の墓に、私は母が眠る墓に入りたいと思っています。息子らはしっかり

夫と一緒の墓は嫌



生活しているのですが、できるものなのでしょうか」とのことです。このような相談は少なくありません。墓は夫婦が絶対、一緒に入るといふ決まりはありません。ただ、墓のことで困っている方の大半は「承継問題」で

同じ問題を承継することになるのです。

新しく墓を購入する方もこのことを意識します。残念ながら私たちが墓に入るときにはこの世にいません。このため墓のこととは守ってくれる人、相談者な

私は母の遺骨を、少し残して手元で供養したかったです。しかし息子の代になったとき、わずかですが、どうしても良いか困るかもしれないと考え、全て墓へ納骨することを選びました。墓、すなわち「供養の心」を末裔(まつえい)にまで継承してほしいという気持ちから出した答えでした。

心の内家族に相談を

ら息子らと相談することが大切です。主人と別の墓に入ること自体、実家の事情もあると思いますので悪いことではありません。息子らが承継するとき墓が二つあり、そこを守っていただくのかという点です。

結局は息子らが、自身の墓のことを考える時期が来たとき、(終活カウンセラー協会代表理事) (次回は30日付)